

1 財政に関する取組

地方公共団体の予算の執行状況や財務状況の実態を把握している強みを活かし、財政課題解決に向けた官民連携手法の活用を支援するなど、地方公共団体の健全な財政運営に寄与しています。

地方公共団体向け課題解決型勉強会

財務状況把握ヒアリングや財政融資資金貸付先実地監査で把握した地方公共団体が抱える課題の解決に向けて、財務局が有するノウハウやネットワーク、ハブ機能を発揮して勉強会を開催。令和4年度から継続実施中。

概要

- 地方公共団体(以下「団体」という。)からのニーズに応じ、各課題の解決に有効な講義内容とした勉強会。
- 課題に応じて、有識者や好事例取組団体から講師を招聘。
- 講師への質疑応答や参加した団体間での意見交換を実施。

1. 学校施設の老朽化対応等にかかる勉強会 (令和6年12月5日 WEB配信による開催)

講義内容:①学校施設の老朽化対応のポイント、着眼点について
②文部科学省「みんなの廃校プロジェクト」について
③長野県飯綱町の取組事例

参加団体:埼玉県幸手市、越谷市、日高市、小川町
新潟県五泉市、南魚沼市、長野県上田市

2. 公営企業（上下水道）経営に関する勉強会 (令和7年2月18日 WEB配信による開催)

講義内容:①将来を見据えた上下水道事業の運営について
②新潟県妙高市の取組事例

参加団体:埼玉県加須市、ときがわ町、小川町、群馬県みどり市、
千葉県我孫子市、東京都羽村市、新潟県五泉市、
長野県中野市など（合計10都県34団体）

取組の成果

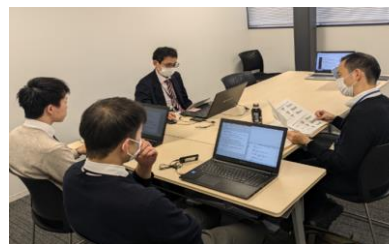
- 多くの団体が直面している学校施設の老朽化対応や上下水道経営に関する課題について、民間有識者や先進事例のある団体からの講義による知識習得のほか、団体間での情報共有は、各団体の行政運営の一助になるものと期待できる。

(参加者からの声)

- ・他団体との比較の積み重ねは、住民向けの説明にも有効。
- ・事業の持続的運営を検討していくにあたり、他団体の取組は大変参考になった。



(講義の模様)



(参加団体の様子)



【勉強会の模様】

(当局会場)

地方公共団体向け脱炭素の取組に係る勉強会

埼玉県内の地方公共団体を対象に脱炭素の取組にかかる課題解決支援や情報共有を目的とした勉強会を関東財務局が開催。地方公共団体の取組推進や参加者間の関係構築に寄与。

概要

◆開催経緯

地方公共団体（以下「団体」という）は、「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づき、脱炭素の取組を進めるとされている。

そのような中、財務状況把握ヒアリングを通じ、団体が脱炭素の取組において、財源不足、取組の進め方や地域との連携手法など、様々な課題を抱えていることを把握。

当該課題を踏まえ、有識者や取組を進めている団体に講演を当局から依頼し、勉強会を開催。

◆開催日

令和6年5月21日(火)※団体規模を考慮し、市と町に分けて開催

◆開催形式

さいたま新都心合同庁舎からWEB配信

◆講義内容

- ①地域脱炭素の推進について(関東地方環境事務所)
- ②カーボンニュートラルを目指す事業への支援
(株式会社脱炭素化支援機構)
- ③自治体の取組事例(埼玉県春日部市、神奈川県開成町)
- ④意見交換

取組の成果

○勉強会には環境担当課、財政担当課、防災担当課等、様々な部署から担当者が参加。参加者同士で活発な意見交換。各種施策の理解や参加者間の関係性の構築に寄与。

《参加者からの声》

- ・他市町の状況を知る貴重な機会になった。
- ・（同じ悩みを抱える団体等に）相談しやすい環境を作ってもらえた。
- ・春日部市や開成町の取組事例は、今後の取組を推進していく上で参考になった。

《講師陣からの声》

- ・脱炭素関連の取組は手探りの部分が多く、組織を超えて協力していくことが重要。



参加団体の模様



当局会場の模様

「PPP/PFI勉強会～PPP/PFIの理解を深めよう～」の開催

東海財務局では、PPP/PFI事業の導入に関して地方公共団体が抱える課題等の解決に資するため、愛知県内の地方公共団体を対象に「PPP/PFI勉強会」を開催。経験豊富な講師による事例に即した講義とグループワークの二部構成で、PPP/PFIへの理解を深め、「まず一步」を踏み出すきっかけを創出。

概要

■ PPP/PFI勉強会の目的

公共の施設とサービスに、民間の知恵と資金を活用するPPP/PFI。「導入したくても知見がない」、「収益事業がないとPFIは成立しない？」といった地方公共団体担当者の不安や疑問に対し、事業導入に係る実務的なプロセス等、基礎的な知識を付与する。



令和6年 5月31日(金) 14:00～17:30

対面開催 東海財務局 2階 大会議室
名古屋市中区三の丸3-3-1



(東海財務局HP)

◆ 第1部 14:00～15:30

講演Ⅰ
「民間投資型PPPの取組 Public businessが成り立つために」
岡崎市 総合政策部 専門監 永田 優氏

講演Ⅱ
「PPP/PFIに対するよくある誤解
～シンプルで分かりやすい事業方式からのスタート～」
㈱百五総合研究所 PPP/PFI事業部 主任研究員 川北 晃二氏

◆ 第2部 15:40～17:30

意見交換会

1 グループ4～5団体による意見交換・質疑応答
岡崎市または㈱百五総合研究所の方がアドバイザーとして参加します



PPP/PFI勉強会

目的
PPP/PFI事業の導入経験のある地方公共団体や多くのPPP/PFI事業に関与している金融機関系シンクタンクから講師を招き、事業導入に係る実務的なプロセスや課題の解決方法などの基礎的な知識を共有すること

対象
「PPP/PFI推進アクションプラン」における対象都市のうち、東海4県内の人口10～20万人の地方公共団体のご担当者のみなさま

講師
✓岡崎市 総合政策部
専門監 永田 優氏
PPP/PFIをはじめ各種分野で、岡崎市の実例を基にした導入手法等をご説明することができます。PPP/PFI事業導入を検討されている方のお力になれば幸いです。
～共有できる知識・経験～
中心市街地活性化推進、総合交通政策、新事業手法等検討、公共用地検討、PFI事業推進

✓㈱百五総合研究所 PPP/PFI事業部
主任研究員 川北 晃二氏
地方銀行およびコンサルティング会社の視点で、PPP/PFI導入における課題と解決策を解説いたします。近年、地方公共団体の皆様からPPP/PFIに関するご相談をたくさんいただきます。その中でみられるPPP/PFIに対するよくある誤解をご紹介するとともに、導入に向けたアドバイスを行います。
～業務実績（公共団体からの受託業務）～
・PPP/PFIに係る導入可能性調査業務
・PPP/PFIに係る事業推進アドバイザー業務
・PPP/PFIに係る事業推進支援業務
・公共施設整備に係る基本構想・基本計画の策定支援業務

560 岡崎市採用
K25 岡崎市企画課 課長
K31 岡崎市総合政策部 部長
K4 総務

K16年に専任職付から出向し、その後、15年超に就いてPPP/PFIに係る業務に専念

取組の成果

■ アンケート結果

「参加して良かった」、「また参加したい」…14名（100%）

◎ 参加者からの主な声

- ・ これまでノウハウがなかったため、今後、事業導入に向けて検討を進める際の参考になった。
- ・ 他市の取組状況を知ることができた。
- ・ グループワークへの参加を通じて、これまで感じていた疑問点を解消することができた。



【講演】
参加者から事前募集した
質問に回答する講師



【グループワーク】
講師陣によるサポートもあり、
議論が盛り上がる

フューチャー・デザインを用いた地方公共団体職員向け財政研修

「仮想将来人」の視点で理想の未来を描きつつ、「現世代人」として必要な施策を部署横断的に意見交換。財源の最適配分を考える機会を創出し、職員の相互理解の促進と行財政マネジメントの高度化に寄与。

概要

- 木津川市から「予算編成作業前に、適正で有効な予算配分について**部署の枠を越えて相互理解を深めたい**」とのニーズを把握。
- 財務省の視点での分析資料により市財政への理解を深めた上で、「子育て」「稼ぐ力」など市の重点施策を各班のテーマに設定。「仮想将来人」となって2040年の状況を想定したあとに現代に戻り、「現世代人」が取り組むべき施策を議論し発表。参加者が所掌業務外のテーマで議論するよう工夫することで、**普段の業務とは異なる立場から市の将来について議論を交わす機会を創出**。

フューチャー・デザインとは？

現世代による利己的・近視眼的な意思決定によって将来世代に負の影響を与えぬよう、仮想の将来世代（仮想将来人）を議論に参加させ、将来世代の利益も踏まえた意思決定を考える手法。



良い未来が想像できたら、それを実現するために
悪い未来を想像したら、そうならないために > 現世代人として何をすべきか？

取組の成果

- 課長職以上の幹部職員52名が参加。フューチャー・デザインの手法により、**足下の課題解決にとらわれず自由闊達に意見交換**。
- 議論を通じ、一つのテーマだけでなく市の施策全体の将来性・重要性まで参加者の**視野を拡大**。限りある財源の最適配分について全員が意識する時間となり、**市の行財政マネジメントの高度化に寄与**。
- 「未来を担う職員にも経験させたい」との要望を受け、中堅職員向けの実施を決定。



【仮想将来人となり熱い議論を交わす木津川市職員】

地方公共団体の課題・ニーズに応じた対応(財政研修会)

福岡県水巻町の若手職員を対象として、団体の財政状況や直面している課題等の説明を踏まえたフューチャー・デザイン(以下、FD)のワークショップを実施。持続可能な社会の実現に向けた施策等を検討。

概要

- 水巻町から、若手職員を対象としたFD(※)のワークショップを実施してほしいという要望を受け、管内初となるFDの手法を取り入れた財政研修会を実施した。研修では財務省主計局から講師を招き、福岡財務支局の職員も各班に同席して進行をサポートした。
- 水巻町の若手職員(26名)を対象とした財政研修会で、財務状況把握ヒアリングの診断表を用いて町の財政状況等について説明、団体が直面している財政状況や課題を踏まえ、今何をすべきか議論し発表した。

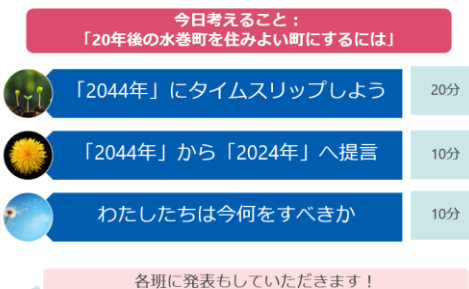
※社会の様々な課題を考える際、現在の世代だけではなく、その課題の影響が及ぶ「未来の人々」の立場も踏まえて議論しようという取組。

財政研修会の模様



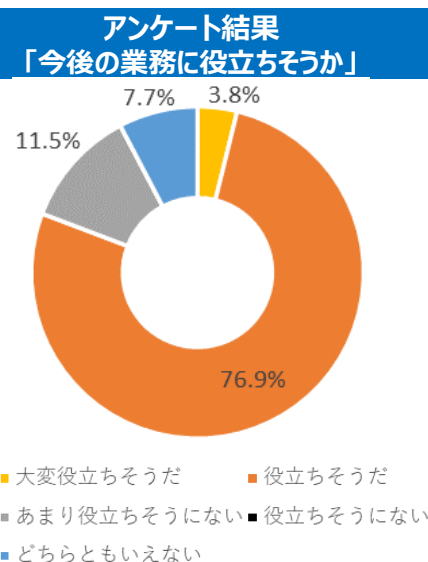
研修資料

グループワークの流れ



取組の成果

- 事後アンケートでは、約8割の参加者から「大変役立ちそうだ」「役立ちそうだ」との回答があるなど、財政担当以外の職員にも理解を深めてもらう契機となった。
- その他、FDの体験を通じて、将来世代の立場に立って施策を考えるといった意識の醸成につながった。



研修参加者の声

- ・水巻町の財政状況を個人の家計管理に置き換えた表現がとても分かりやすく、頭にスッと入ってくる研修だった。
- ・これを単発の「よい研修、新しい研修」というだけではなく「よりよい事業や業務の実施のための研修」としていくにはどうすべきかを次の段階につなげられればと思う。
- ・住民との意見交換会に役立ちそうだった。
- ・ローテーションで全職員が参加できるようにしてもよいと思う。